



TITLE:

Neutron Star形成と進化の問題(「多体系量子論と天体」研究会報告,基研研究会報告)

AUTHOR(S):

佐藤, 勝彦

CITATION:

佐藤, 勝彦. Neutron Star形成と進化の問題(「多体系量子論と天体」研究会報告,基研研究会報告). 物性研究 1971, 15(6): D22-D22

ISSUE DATE:

1971-03-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/88209>

RIGHT:

中性子星の表面は、薄い層ではあるが、温度差も大きく、外からの mass のふりつもらも考えられるので、何らかの active な状況にあると思われる。(これを X-star のモデルとして考えることもできる。)もし、そこに強い磁場が存在すれば、粒子の加速、強い輻射機構も充分考えられる。つまり、輻射の場所とその状態をつくり出している原因(磁場、回転、エネルギー・ソース)とを明らかにすることによつて pulsar の機構について、かなりはつきりしたイメージが持てると思われる。いずれにしても、中性子星のモデルと結びついた中性子星本体の問題と中性子の表面や廻りの状態(プラズマ、電磁流体)の両面を明らかにしなければならない。

(reference)

H. A. Bethe, G. Börner and K. Sato, Astroph. and Astron. 7('70)279.

S. Ikeuchi, S. Nagata, T. Mizutani and K. Nakazawa
(pre - print)

..... Neutron Star 形成と進化の問題

京大理 佐 藤 勝 彦

報告された内容は、報告をまとめる際、最初の Introduction - 中性子星について - に含められていますので、それを参照下さい。